

行政視察報告書

令和6年 10月 30日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 北川 陽大

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

- 1. 視察等名 令和6年度議会活性化検討委員会・議会運営委員会合同行政視察研修
- 2. 視察期間 令和6年10月30日（水）
- 3. 視察場所及び目的
 - ①岐阜県可児市議会
 - 「議会改革・議会活性化について」

4. 調査内容感想等

・視察の目的

議会活性化検討委員会での視察。議会活性化するための先進地である可児市の取り組みを学び本市に生かす。地方議会の役割、二元代表制の持つ意味と市民の声をなど

・視察の内容

市議会の現状を調査するために、議会改革のためのアンケートを平成23年に実施。20歳以上の市民2000人行い、回収率は約40%の回答をもらった。

結果は「議員の活動内容を知らない 64.2%」

「市民の声が市議会に反映されていると感じている 6.4%」

と非常に厳しい結果であった。そのアンケート結果を踏まえ、議会改革に取り組み五年後の第二回のアンケートを平成 28 年に行った。その結果、議会だよりを「毎回読んでいる」人の 31.4%が議会改革について「進んでいる」と回答し、「進んでいるとは思わない」の 30.0%より多くなる結果となった。

この結果を踏まえ市民への「議会の見える化」を推進し、

① さらなる情報公開の徹底。

② 「議会だより」を軸としたわかりやすい広報の展開、市民の意見を聴く意見交換会の充実をはかることとした。

また、定期的に市民アンケートを実施し、市民の声を反映させる議会を心掛けている。

○議会中継

ケーブル TV だけでなく、市の HP から検索しなくてもスマートフォンで気軽に見てもらえるように YOUTUBE など活用している。

○予算委員会 決算委員会

また、予算審査と決算審査の内容が議員間だけでなく市民にもわかりやすく伝わるように予算審査では「重点事業説明シート」を。決算審査では「重点事業点検報告書」を活用している

○意見聴取

可児市の基本条例で議会報告会を毎年開催すると規定している。

平成 24 年から実施しており、開催時期は春(5 月頃)と秋 (11 月頃) であり、開催場所は各地区センターである。主に市民からの意見聴取であり、内容を議会広報誌、議会ホームページ、ケーブルテレビ、FM 放送、フェイスブック、地域回覧板、チラシ配布 等で報告している。

さらに市民参加の推進と情報公開のため、地域活動団体や教育委員との懇談会も行っている。

○委員会代表質問 (※長浜は代表質問は会派のみ)

委員会全員の一致で行う執行部への問いかけを行うことで影響力は大きく、より今後の提案につなげられると考えている。

○視察報告会の実施

熊本地震が起きた際は本会議場で視察報告会を議場で行った。

○若者参加の議会

また地域の高校生にも議会に参加してもらい、高校生議会でも彼らなりの意見を出してもらうことに努めている。(※高校生も市民の一人であり、彼らの意見を把握し市政に反映させるため。)

さらに可児高校では高校で生徒間の模擬選挙を行ってもらい、政治参加を促す教育を行っている。可児高校は県立であり、市の教育委員会だけでは決定出来なかったが、高校の教員側からキャリア形成の学習を求める提案があった。そのため、スムーズに可児高校の議会参加が叶うこととなった。当初、県の教育委員会からは反対があったが、一回目が成功しマスコミからも注目を集めた。結果、岐阜県の教育委員会も第二回からは協力的になった経緯がある。

○子育て世代参加の議会

高校生議会同様にママさん議会も行っている。また、子育て世代との意見交換会を子育て拠点施設にて行っている。

これら『徹底』して老若男女問わず、市民からの意見ヒアリングと公開する議会を心掛けていく。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

本市での様々な課題に関して、議員個々で市民への対話会などは行っているが、議会全体としてそれが出来ているかと言えば不足している。

可児市は「市民に伝える」「意見をもらう」を徹底しておられ、開かれた議会。

また、市民の代表である意識を強く持っている。

長浜市としても議会として、市民への公開を条例化する方向性を目指すべきではないかと考える。

まず公開の条例化の有無を問わず、市民に開かれた議会にするため、市民の代表として意見をヒアリングするための機会を増やさなければならないと考える。

また、こういった取り組みを行うことで、市政参加する市民の中から次代の議員が生まれていくことを目指すことが理想だと感じる。